

様式第2号(第10条関係)

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

平成27年度第1回本匠地域振興審議会

2 開催日時

平成27年9月15日(火) 19時00分から22時00分まで

3 開催場所

所在地 佐伯市本匠大字波寄2685番地

会場名 本匠振興局 2階 大会議室

4 出席者

会長：河原博秋

委員：高野隆正、川野敦子、高橋豊信、中山淳、川野圭一郎

三浦章吾、柴田浩美、磯川利恵子、三原志保

10名中10名出席

(市職員)

本匠振興局長：甲斐廣尚

地域振興課：河原利文（総括主幹）、品矢光賢、大友富茂、甲斐龍一郎 計5名

5 公開、非公開の別

公開

6 傍聴人数

0人

7 議題及び結果

議題

(1) 役員の選任について

(2) 佐伯市人口シミュレーション案について

(3) 佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略たたき台について

(4) その他

8 審議の内容

(1) 諮問事項である佐伯市人口シミュレーション案について審議を行った。

《審議内容》

委員：このまま行けば3万4千人になるところを何かの政策を行って1万人上乗せを行うという目標に対して、如何こう言うのは難しいところがありますね。

委員：3万4千人では成り立たないというのは何を基準としているのですか。

事務局：自治体の消滅が危ぶまれる点です。市政を行う基準として人口5万人以上というものが有ります、これを基準としているのだと思います。

委員：佐伯市の人口が3万4千人になると購買力が低下するため、生産量も低下していくということになりますね。人が減れば仕事も無くなり子供も出来ない、本匠がいい例ですね。

委員：佐伯市では人口減少の原因を特定できているのですか。水が漏れている場所を塞がずに、水を入れる量を増やす様なことはどうかと思います。

事務局：出生率の低下が大きな要因と考えています。高度成長期の最大人口時から、働く場所の減少や社会環境の変化により出生率と共に人口が減少して行ったのだと思います。

事務局：若い方はこの問題に対してどのような意見がありますか。

委員：お金と子供の面倒を見る人がいないことが問題です。子供を大学まで進学させようとすると2、3人が子育てを行える限界だと思います。

委員：今までの意見のなかで、人口低下の原因を特定してほしいという意見は地域振興審議会の意見として提出して良いのではないですか。

事務局：この人口シミュレーション案は社人研による推計を基に出したもので、人口低下の原因があつて結果が現れているのではなく、人口低下の進行を一律に数字化したものに過ぎず、人口低下の原因の特定をこの予測から行うことは出来ないと思われま

委員：ということは、計算で出た数字が良いか悪いかのみ聞いているということですか。

事務局：はい、そうなります。

(1) 諮問事項である佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略たたき台について審議を行った。

《審議内容》

委員：現在の地方自治体の人口流出の悪循環を解決するためには、団地のように格安の住居を提供する様な政策を行わなければならないと思います。現在の流れを逆向きにするためには、お金を出して新規の居住者を募る事も必要だと思います。

委員：結婚を機に地方の実家から出て行く人は多くいますので、地元に残る環境を作っていけたらよいと思います。また、祖母や祖父とのふれあいが子供の郷土愛を高め、子供の教育に良い影響を与えるといった面も有るのではないのでしょうか。

委員：聞いた話ですが、保育園の不足を補うために高齢者のサロンに子供を預かって貰う取り組みがあるそうです。親は子供の面倒を見て貰い、高齢者は子供から元気ももらい、ボランティアクーポンを支給するという制度だそうです。この様に高齢者の経験をボランティアとして提供して貰うような取り組みがあったら良いと思います。

委員：地域に大学があればそのまま定住される人も多くなるでしょうが実現は難しい所です。ですから、子供たちに地元への愛着を強く持って貰い、Uターンをして貰うような政策を打ち立てるべきだと思います。

委員：K P I の指標が目標とマッチしていないように思えます。例えば、目標4の個別目標1の指標が空き家件数となっていることに疑問があります。中心市街地の活性化を行うからこのようになっているのでしょうか。

事務局：空き家を利用した政策を行おうという考えがあるからこのような目標設定になっているのだと思います。また、数字として確認しやすいものの中の一部をかいつまんてK P I として定めている部分があると思います。

委員：地域のストックの中に空き家も含まれていると思いますが、観光資源や人材等の掘り起こしと関連付けてやるべきではないのでしょうか。

委員：K P I 指数を無理やり一つにするから、解り難くなっているところが有ります。

指標の設定に対してもう少し考えたほうが良いのではないのでしょうか。目標と指標の繋がりが感じられません。

委員：指針となるたたき台については良く考えられていると思いますので、たたき台に対してはあまり意見が有りません。ただ、たたき台の先の政策についてはどこまで意見を求めているのですか。

事務局：基本的には皆さんの多様な意見を聞きたいということで審議会を開いています。たたき台に対して賛成で、さらに意見を付随するというという形でもかまいません。

委員：今現在、佐伯が出生などに関して補助金を出している事業はどのような物が有りますか。以前は出産祝い金という制度があったと思いますが。

事務局：現在は行われていません。

委員：出産祝い金が出産を行う際の励みとなっていた面もあったと思います。子供を増やすという方針を採るならば欠かせないのではないのでしょうか。

委員：たしかに気持ちとしては有ったほうが良いでしょうが、祝い金があるからといって4子、5子を育てようとするかには疑問があります。

委員：でも、有った方が嬉しいと思いますよ。

委員：出産祝い金では有りませんが、12月から県下一斉に子育てクーポンの配布が有りますし、国の子供子育て支援制度を受けて佐伯市でも今年度から佐伯市子供福祉サービス支援事業計画が始まります。先ほども話しに上がった保育園の不足に対しては、市営保育所の建て直しと定員増を予定しています。この様に佐伯市は子育てには力を注いでいるため、基本目標2にある商工の振興に力を注ぐべきだと思います。

委員：たしかに、地方創生の政策に対して地域住民が一番期待していることは基本目標2だと思います。ここを実現させる説得力がないと、今までと同じように目標を定めただけと思われるのではないのでしょうか。

委員：でも、予算をつけて確実に実行するのですよね。

事務局：はい、これを基に農林水産部など各部が予算を上げて実行するようになると思います。佐伯市総合政策で行う筈だった予算に加えて地方創事業の交付金が使えますので、今までの予算よりも膨らんでいると思います。

委員：この様な計画を作るのも結構ですが、それなりの組織を作って計画的に進めなければならないと思います。農林関係だから農林課に、福祉の関係だから福祉課へなどといった調子では、今までのやり方を踏襲するだけで単なる予算増に終わってしまうのではないかと思います。市が本気でこれらの計画に取り組むのならば、きちんとした組織を作って取り組むべきだと私は思います。

事務局：大分県は県の創生本部を作り、佐伯市は佐伯市の創生本部を作って取り組みを行っているところであります。ただ、この地方創生計画が何年続き、予算がどうなっていくか解らない所がありまして・・・

委員：それは解りますが、地方創生本部といっても寄せ集めの組織で、計画に対しての責任を負うような組織ではないですね。ですから、本気で取り組むのなら全体の進行管理が行えて、各部局に口を出せる組織が必要になると言いたいのです。

事務局：市のほうでは、各部に予算を計上させていく方法で目標を達成できるという考えがあるようです。極論になりますが、明日にでも自民党が与党で無くなれば創生計画の予算が立ち消えてしまうかも知れません。

委員：政党が変わっても佐伯市は佐伯市でやります。というような事が佐伯市の独自の取り組みと言えるのではないのでしょうか。交付金が無いからやらないというのは、今までと全く変わらず、人口も3万4千人のままで変わらないでしょう。

委員：5年たったなら詳しく検証する取り組みも必要ですね。

(4) その他

なし

9 会議の資料名

佐伯市・本匠振興局についての意見や要望（本匠）

10 問い合わせ先

担当課 本匠振興局 地域振興課 電話番号 0972-56-5111